



学生に聞きました!
講義・大学・将来の夢

大藤 真里奈さん(左)



商学部 商業・貿易学科 3年生
日高ゼミはとってもユニークでおもしろいと思います。先生やテキストからの知識の詰め込みではなく、自分たちで動いて現場を体験することが多いです。直接企業の方にお会いして、実際の現場のお話を聞きます。その中で私は考えたアイデアが、実際のビジネスに生かされることもあります。それはとても嬉しいです、やりがいも感じます。また、豊かな自然に囲まれた多摩キャンパスは素敵ですし、企業経営学や事業学を専攻している教授も多数いらっしゃいます。

吳 タクイさん(右)

商学部 経営学科 3年生
僕は香港からの留学生です。日高ゼミはインプットされるばかりではなく、僕たち学生がアウトプットできるところがとてもいいと思います。本を読んだり研究したりするだけではなく、それ以上に自分たちで実践できるのが嬉しいです。中央大学は留学生が多く、グローバルな大学だと思っています。中国はまだ解決すべき課題が多いので、ここで勉強したことを持ち帰って中国社会に貢献したいと思っています。

中央大学 | URL <http://www.chuo-u.ac.jp/> 入学センター TEL:042-674-2144 〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

- 法学院
- 経済学院
- 商学部
- 理工学院
- 文学部
- 総合政策学部

[沿革・歴史]

1885(明治18)年東京府神田区神田錦町に英吉利法律学校として創設
1903年 社団法人東京法学院大学が設置認可され、専門学校令により東京法学院大学と改称
1905年 校名を中央大学と改称し、経済学科を新設
1909年 新たに商業学科が設けられ、法学、経済学、商学の3学科を有する
1920年 大学令による中央大学の設立認可を受け、法学院・経済学院・商学院・大学院・大学予科を擁する旧制大学の体系が整えられる
1949年 学制改革にともない新制大学が発足、工専専門学校を廃して工学部を新設
1951年 文学部および新制大学院を設置
1978年 文系4学部(法・経済・商・文)が多摩校地へ移転。理工学部は後楽園キャンパスを増築。
1985年 創立100周年
1993年 総合政策学部を多摩キャンパスに新設
2000年 市ヶ谷キャンパスを開校。
2002年 国際会計研究科(アカウンティングスクール)を開校。
2004年 法科大学院(ロースクール)を開校
2008年 後楽園キャンパスに戦略経営研究科(ビジネススクール)を開校

イベント情報

- オープンキャンパス
 - ◆多摩キャンパス(文系学部)
7月24日(日)、8月19日(金)
 - ◆後楽園キャンパス(理工学部)
8月6日(土)、8月7日(日)
- ※各キャンパスのプログラムなどの詳細は、中央大学のWEBサイトをご覧ください。

取材担当記者より
中央大学多摩キャンパス、
こんな大学でした!
新宿から京王線と多摩都市モノレールで約50分の多摩キャンパスは、何といつても大自然に囲まれていることが最大の特徴。取材時も野鳥のさえずりがたくさん聞こえ、勉強や部活・サークル活動に励むにはもってこいの環境です。学食も雑誌に取り上げられるくらい有名で美味しい評判だそうです。

先生のご紹介

ひだか かつひこ
日高 克平先生

中央大学商学部教授
中央大学商学部商業貿易学科卒業後大学院進学。中央大学商学部助教、中央大学商学部専任講師、中央大学商学部助教授を経て現職。
所属学会・団体:日本経済学会連合理事・評議員、日本経営学会理事、ソーシャルプロダクツ普及推進協会(APSP)常務理事。
研究テーマ:ソーシャルビジネス研究、自動車産業における社会との共生戦略、社会共生型ビジネスモデルの探求、ビジネスモデルの持続可能性とCSRなど。



中央大学 商学部

演習 I

講義の流れ

講義の流れ:さまざまな社会問題の中からテーマを選択し、そのテーマについて考察し、解決策を学生自ら企業に提案する。企業とコラボレーションしながら、問題の解決策やビジネスモデルを探ることにより、実社会での仕事のプロセスを学ぶ。

醍醐味

現代社会や現代企業が直面している問題点について、ビジネスで解決していく方策を企業と一緒に考察することができる。学生のアイデアが企業で実際に生かされたときの達成感が最大の醍醐味である。



学生と企業と先生が共に考える
現在、世界的規模で食糧危機が不安視されている中、先進国を中心としたフードロスは深刻な問題となっている。今日は「フードロス」について、その問題点と改善の方策を解説します」と人。

就職活動真っ最中の4年生が、壇上でスクリーンをバックにプレゼンを始めた。真剣な表情で聞いていたのは、課題演習の3年生、専門演習の2年生、大学院生の約40人。

フードロスをなくせ!

商学部の日高克平先生のゼミのひとこま。プレゼンの内容はイオンとコラボレーションサイトでおこなった「フードロスへの取り組み」についてである。「家庭、飲食店、スーパーマーケット、コンビニエンスストアなどで生じる

フードロスのなかで、家庭でのフードロスは大きな割合を占めています。どうしてフードロスが出てしまうのか。どのように工夫をすればフードロスを減らすことができるのか」という課題を寸劇で立ててプレゼンしている。立派な演技がある分、内

容がとてもわかりやすい。日高ゼミは現代社会が抱えるさまざまな問題について、学生と企業が一緒にテーマを取り上げ、その原因、理由、改善について学生と企業が一緒にやってきた。30年間の演習授業である。

学生の力が企業を動かす

「私のゼミでは、ビジネスや経営の知識を座学で学ぶだけでなく、実際にビジネスの現場に参加してさまざまなプロセスを体験してほしいと考えています。今日はトップバリュ株式会社特別講師としてイオンマーケティング本部の有幸泰様をお招きし、企業はどのようにフードロスに取り組んでいる

か」というテーマで学生に講義してもらいます」と日高先生。学生のプレゼンの後、有本幸泰氏が壇上に上がり、世界のフードロス状況を講義していく。

有本氏は「賞味期限と消費期限の違い」から話始め、スーパー、ケットでのフードロスについて、仕入れ数と販売を次々に紹介していく。

いずれも深刻な問題であるため、学生は真剣な表情で聞き入っている。このようなさまざま問題に関して、学生から

ここで学んだことを忘れないで社会貢献してほしい

「オーガニック、エコプロダクト、フードロスなどといった現代社会の抱える課題や先の震災の支援などが自ら想定する企業や

次々と質問や提案が上がり講義も白熱。活気のあるゼミだということがひしひしと伝わってくる。

団体とアポを取り、連携できる部分について提案するよう学生を指導しています」と日高先生。オーガニックといつても、国によって基準はさまざまであり、その定義付けはとても難しい。工芸商品やファーマトレード商品は利益とコストのバランスをとることが難しい。フードロスは食糧事情と食生活・食文化の関係をどうみるかで意

見が分かれる。このよう難しい問題を学生たちは議論し、そして現場を取材したり体験しながら解決への道を探る。「考えれば考えるほど詰まりになってしまいます。挫折ではないけれど、無

最後に日高先生は、「ゼミの同期会に呼んでくれた卒業生が『ゼミの実感は日高ゼミの成果であり、大きな醍醐味』と話してくれたときには本当に嬉しかったですね」とにこやかに語ってくれた。

企業に持続性あるビジネスモデルを提案せよ